

## 土木の連携に思うこと

CNCP サポーター  
株式会社原工務所 代表取締役 原 諭



私は島根県江津市にある建設会社の社長をしています。所在地がわかる方はそう多くないかもしれませんが。まずは、山陰地方の島根県と鳥取県の位置関係から始まり、島根県がわかっても、その中で江津市がどこにあるのかご存知の方は少数派だと思います。中国地方一の大河、一級河川江の川の河口に位置する市となります。会社の規模としては、国土交通省の直轄工事Cクラスで、年間工事高20億円前後のいわゆる地域建設業となります。

実家の家業が土木をメインとする建設会社であったため、幼少期よりの英才（洗脳？）教育により何も疑うことなく土木の学科に進み、大手ゼネコンに就職後、家庭の都合もあり20年前に実家に戻り、13年前に社長に就任し、今に至っています。

私の会社のような地域建設業の有志で構成されている「（一社）地域建設業新未来研究会」（CCA：<https://www.cca-net.or.jp/>）に参加しており、月一度東京の（株）日刊建設通信新聞社の本社に集まり、「実行」を前提にいろいろなテーマで研修、意見交換をしています。ある月の例会の際、たまたまその会場の別室で会議をされていた CNCP の役員の方が大学の先輩であると、主催者の方に紹介いただき、CNCP の活動を聞く機会がありサポーターとして登録させてもらった次第です。

私の今の仕事の地域建設業が担う大きな役割の一つとして、災害への対応（特に初動）があります。今年も中国地方を中心として豪雨災害が発生し、尊い命が犠牲となりました。ここ島根県では、人的被害が無かったものの、今年に入って最大震度5強の島根県西部地震災害が発生したり、平成30年7月豪雨では、当江津市でも多くの家屋の浸水被害が発生したりしています。

7月豪雨では、当社は国土交通省から河川維持工事を受注している関係上、江の川にて夜通し排水ポンプ作業を実施しました。雨の降り方が昔と大きく異なり、増水のスピードや本川と支川の水位関係などこれまで経験したことのない状況の中、人的被害もなく作業ができて一安心したところです。

私が島根に帰ってからの20年の中でも、ここ数年は出勤を伴う災害が増えてきていると感じています。しかし、公共事業費の削減の影響もあり、地域建設業者の数も減少し、とっさの対応力が落ちてきているのも実感しています。昔は地域の建設業者だけで対応できていたことができなくなっているのです。

前述のCCAでも災害時に全国的各地からの資材調達の取り組みをするなど、広域ネットワークでの災害対応について取り組んでいます。

そうなった理由はさておき、緊急対応時の個々の対応力が落ちてきているときには、地域、会社の大小、業種を超えて、みんなで協力して対処していく必要があると感じています。

地方にいれば、どうしても知り合う方、つまりはできるネットワークは限られてしまいます。

CNCPはNPOの連携の場とは思いますが、「CIVIL」にかかわる人の集まりですので、そこにできるだけ参加させていただき、いろいろなネットワークができれば、個人的にはうれしいと思っています。

サポーターの中に、私のような地域建設業者がどのくらいいるかわかりませんが、これからも多様な連携の一部分になれるような参加ができるようにしていきたいと思っています。これからも、よろしくをお願いします。